

東ティモールを対象とした国際共同研究に大学院生が参加

国際協力学専攻が京都大学・防災研究所や東ティモール国立大学などと実施している国際共同研究「紛争後社会における防災機能復興プロジェクト：東ティモールを事例として」には、これまでに6名の大学院生（博士課程および修士課程）が研究者として参加しています。大学院生は、東ティモールの国家としてのガバナンスや国際機関による援助の方法論について、各自で研究テーマを設定して取り組んでいます。

このような研究には、現地での実地踏査と関係者からのヒアリングが不可欠です。修士課程の学生は、現地が乾期で移動が容易な（1年次と2年次の）夏休み中に現地を訪れ、各人の研究テーマに従って、東ティモール政府の諸機関、国連機関、（JICAなどの）二か国間援助機関、NGO、現地の大学、などを訪問してのヒアリングや実地踏査を行っています。博士課程の学生は、雨期を含めて、これまでに都合6回現地を訪問して調査を実施しています。



これまでに、東ティモールを主題とした修士論文として、「参加型開発における意欲と能力：東ティモールにおける農業開発プロジェクトに対する現地住民の消極的な参加」、「紛争後社会における灌漑施設復旧・維持管理支援プロジェクト形成に関する比較研究：東ティモール民主共和国を事例に」、「紛争後国における水道事業の復興：東ティモール首都デシリを事例に」、「東ティモールにおける政府機関の人材不足の改善策：公務員とローカルNGOとの比較の視点から」などの研究が行われてきました。また、近く博士論文を提出する予定の博士課程3年の学生や、来年修了する予定の修士課程1年の学生も、東ティモールを事例とする研究を推進しています。

大学院生による研究の成果は、既に学術論文や書籍として刊行されています。さらに、京都大学・防災研究所との共同研究として実施された、東ティモールに関わる研究からの知見は、大学院生による学術論文を取り纏めた学術誌の特別号として、2013年12月に刊行されます。

